

The Correspondence of Noboribetsu City Nature Center

登別市ネイチャーセンター ふおれすと鉦山
ニュースレター

鉦山 録

おおか

Illustrated by Hiyama T.



Contents

Vol. 14
Sep. 2005

特集 4年目を迎えたふおれすと鉦山	
お互いがあることで幸せな里山づくり.....	2
オープンから40ヶ月の活動報告.....	4
進化するコラボレーション.....	5
リトル・ヴォイス ～リレーエッセイ～	7
お知らせ.....	

日本人が古くから持っているはずの木との付き合い方。それをよみがえらせることに、本質があると思う。

特集 4年目を迎えたふおれすと鉾山

お互いが あることで 幸せな 里山づくり

ひとり ひとりに「おおきな木」が 育つように。

昔、1本のリンゴの木があり、かわいいちびっこななかよし…

「おおきな木」(シェル・シルヴァスタイン著：篠崎書林)という絵本がある。

おおきなりんごの木が、成長してゆく少年に愛を与え続ける物語。木は少年に枝を与え、幹を与え、切り株だけになってしまう。それでも、おおきな木は、幸せだという。

…どうして、木は幸せだったのだろうか？

私が、まだ小さかった頃、祖父のうちに泊まるのが好きだった。夕暮れになると、集めてきた杉の葉をたき付けにして五右衛門風呂を沸かしたりする。裏山の斜面には杉林があり、そこで拾う柴は燃料にもなったし、ほどよい木は田んぼの杭にもきのこのほだ木にもなった。祖父のうちでは、木は日常生活にあり、身近以上の存在だったのだ。

今の生活では、便利なものが増え、木を身近に感じる道具たちは少なく、森は日常生活からとても遠のいてしまったように思う。だが、私は、小さい頃の影響か、木でできた道具を好んで使ったり、森へ出かけ、木や生き物との出会いににまりしたりする。日常に木を取り入れることに、愛着を持ち、癒しを感じる気持ちを忘れてはいない。そして、普段の生活のなかでも、木や森とつながっていることを無意識のうちに感じている。

森には、守ることが大切な森と、活用することで保たれる森がある。鉾山の森は、今までひとの手が関わってきた森だ。だからこそ、ひとが関わって活かす森を育てていきたい。そして、関わることで、自分と森や木とのつながりを見つめなおすきっかけをつくっていくのだ。その活かされる森を地域のみみんなで一緒に育てていきたい。

その中で私たちも、もしかしたら、「おおきな木」をみつけるかもしれない。みんなで植えて、みんなで愛しんで育てた「おおきな木」たちは、いろいろなものを与えてくれるだろう。学びや気づき、楽しみや癒し、道具や燃料、美味しい実やいいにおいの花、信仰や畏怖、生き物のつながりや生と死の刹那、遊びや想像力…。

そして、「おおきな木」が思った幸せな気持ちを、ともに共感できるかも知れない。

私はそんなふおれすと鉾山流里山づくりを目指している。

遠藤(Civic Coordinator)

鉾山流里山づくりプロジェクト

楽しむこと

百年かかる森づくりは楽しむ過程がないと続けられない。様々な森の恵みを頂いて楽しむこと、そこに集う人々との出会いを楽しむことは、実は一番大切な要素の一つに間違いのないだろう。

育てること

森の恵みを頂くためには森を健やかに保つ必要がある。ひとが関わって作られた鉾山の森はひとの手が関わり続けないと健やかに育たない。百年後の元気な森を思い描きながら子を育てるような愛が必要だ。

知ること

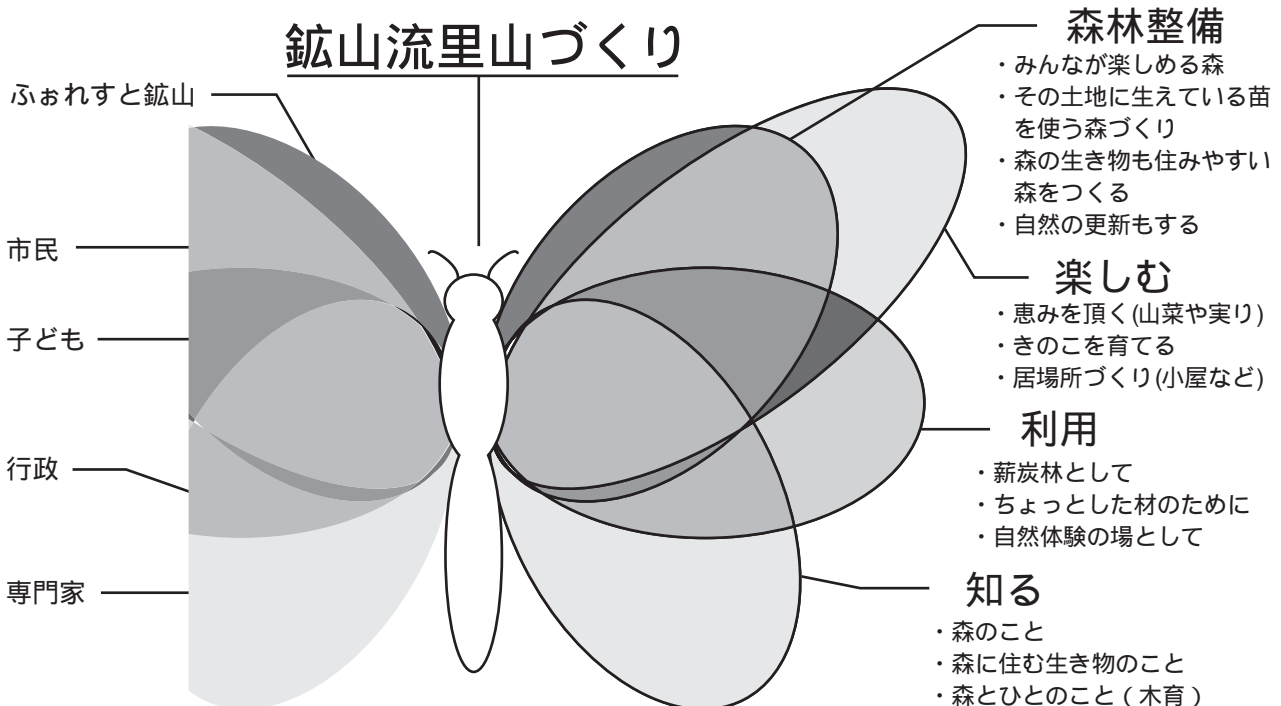
ひとと森の健やかな関係は、ひとと森と木の関わり方を見直すことで築かれるものだと思う。生活の中に今も人知れず親密に息づいている木々は、どんなところで生きてどのように材にされてどのように加工されて今、手許にあるのだろう。木と森に触れる直接体験を通じて忘れかけた森とのつながりに思いを馳せるきっかけを提供したい。

活用すること

森は使うことで活きる。材、日々の薪や炭、ちょっとした道具。使いながら育て、育てながら使う。その関係こそが里山-人と森の最もよい関係-の要でもある。

たくさんの人々が関わること。

「さとやま」は地域で育てるもの。地域の人々がみんなですべて、学び、利用する、みんなが関わるから、ひとの社会と森の豊かな関わりが生まれる。



新しい森づくりへ。  to the next a hundred years forest

オープンから40ヶ月目の活動報告

ふおれすと鉱山の主催事業

ジュニアチャレンジキャンプ『ナナハンキャンプ』 8/2 ~4

「じぶんのことはじぶんで決める」ということをルールにはじまったカムイヌプリ登山。当日はあいにくの天候。それでもカムイヒュッテに泊まってみんなで下山。元気がありあまっていたから、みんなで全力遊びをするというオプションもありました。次は縦走するぞ~!



コーザン・ながづつレンジャー【お仕事体験プログラム】 6/25, 7/23

6月は鉱山町にどんな鳥がいるのかみんなで調査。この時期は巣箱の中で卵をかかえている鳥たちがいます。これからも調査しないといけないから、巣箱に行く道も大鎌を使って笹を刈りました。7月にはお魚たちの実態を魚道で調査。その後は、すぐ木の葉なんかでつまってしまうパイプなど魚道の大掃除!みんながお掃除してくれたから、お魚たちにも快適な環境になりました。



森のようちえん【幼児のための自然体験プログラム】 6/25、26 7/23、24 8/13、14

6月の最初は虫に触れない子もいたけど、とってきた虫をヒヨコさんにあげるとパクパク食べるもんだから、みんな一生懸命になって虫探し。7月には森の力をつかってTシャツをピンクにそめよう!と草木染めに挑戦。緑の葉っぱからなんでピンク色に染まるのかな?ステキな「森のようちえんユニフォーム」を作ったよ。8月は「じゃぶじゃぶようちえん」一寸法師から川で遊び方を伝授され、ぶかぶか浮いたりばしゃばしゃ泳いだり。みんな今度から自分でも遊べるようになったね!



ふおれすと鉱山の協働事業

夏のスペシャルウィーク 8/12 ~14

今年の夏もスペシャルウィーク!今回は一新した内容をプロデュース!夜の大散歩、コーザン夜話という夜のプログラムあり、モモンガくらぶのクラフトキット提供、土器づくりや一日中の川のモンキーパークなどをやりましたよ。冬のスペシャルウィークはもっと変わっていくぞ!



猛きん渡り調査 9/19

4年目になる猛きん渡り調査、貴重なデータがたまっていきますよ。調査は地道な作業なんだなぁ~と実感したり、もっと回数を増やしてデータを集めよう!という声も上がっていました。



モモンガくらぶの主催事業

第2期KoNG 養成講座 6/18 ~19 (昆虫), 8/27 ~28 (水生生物)

昆虫や水生生物を学ぶことを通じて「自然」の伝え方や楽しみ方を学びました。講師には村井雅之さんを迎えました。基本的な知識をつけてから、フィールドに出て活動。普段はまず目にするこくない生き物の棲息の様子、生態については入口程度でしたが楽しく学ぶことが出来ましたよ。



草木染め 6/26

自分たちで集めた野草の素材を使って草木染めに挑戦!思い通りに染まらないのがおもしろい!今回の素材はアカソ、ヒメスイバ、オオイトドリ、ヨモギでした。ちなみにそれぞれ木灰、川又温泉水、ミョウバンを媒染に使用しました。



05わんぱく自然体験活動 7/9 ~10

講師に環境学習フォーラム北海道代表の藤田郁男さんを迎え、地球の内部の話や鉱石の不思議など子どもにわかりやすい解説で楽しい鉱石講座となりました。川に行くと「お宝」探すフィールド実習もあり。MY 鉱石標本もつくりましたよ。

清流ジャブジャブ(沢のぼり体験) 7/31

深みや急な流れをいったり、避けたりしながら雨でちょっと増水した鹿の沢を歩き、美沢の滝にたどり着きました。冷たい水にも、よく滑る石にも少しずつ慣れ、のんびり遊行了しました。つるつる滑る美沢の滝をのぼり、滝上のナメでは天然のウォーターライダーを楽しみました。

「こうもり調査活動」 8/20

コウモリ講座のあと、バットディテクターという調査器具を片手に何箇所かに分かれてコウモリ調査を行いました。夕暮れになると、コウモリが活動をはじめのが分かり、河原で餌を食べに来たコウモリをみることができました!!

受託プログラム(学校対応など)

7月 鷲別小学校宿泊学習、登別小学校宿泊学習、室蘭聾学校宿泊学習、豊浦大岸中学校、幌別東小学校宿泊学習、追分町教育委員会宿泊学習、登別温泉小学校宿泊学習、登別特別支援振興協議会、白老町立萩野小学校6年生学年レクリエーション、教職員10年研修、幌別小学校ことばの教室親の会、登別保育所、登別子ども劇場、仏教会

8月 肢体不自由児父母の会、登別温泉小学校、幼稚園(札幌市)、胆振教育研究所、子育て支援グループなど、三育小学校、リリー文化幼稚園PTA、登別小学校4年生、幌別小学校宿泊学習、青葉小学校宿泊学習

9月 若草小学校宿泊学習、青葉小学校4年生、緑ヶ丘小学校宿泊学習、竹浦小学校宿泊学習

森のようちえん

その
盛り上がり
ボランティア



「たのし〜!」「うひゃ〜!」「こんな場所、あった
んですね〜!」

先日、森のようちえんのボランティア向けに"森のよ
うちえん・ボランティア研修"なるものを行なったとき
の皆さんの声です。森のようちえんで実際に子どもたち
が遊ぶ場所に行って、大人だけで思い切り遊ぶ時間を作
りました。

森のようちえんの大きな力であるボランティアのみな
さんには、活動を率先して盛り上げてもらったり、子
どもでは気づかない危険を取り除いてあげたり、プログラ
ムの準備をしてもらったり...いろいろなお手伝いをして
もらっています。

でもなぜ遊ぶことが研修なのでしょう。それは、ふ
おれすと鉱山の森のようちえんに関わる大人にとって最も大事なことは、"まず自分自身が楽しむ、感
じる"ことだと思っているからです。森のようちえんの活動のときに、まわりの大人がたのしそうにし
ていると、自然と子どもたちは楽しそうに自然の中で遊びます。逆に大人がつまらなそうにしていると、
子どもの遊びは発展しないようなのです。だからまずは大人が楽しい!そんな関わり方を大事にしたい
のです。

そんなわけで初めはどう関わっていいのかわからずに戸惑っているボランティアの方々も、子どもと
一緒に花をみつけて"きれいだね〜"と共感したり、一緒に川に入ってスプぬれ!になったり、自分達で
集めてつくった焚き火で一緒に暖まったりと、活動が終わった頃には皆さんの"たのしかった〜!"の笑
顔を見ることができると、それはそれでとてもうれしかったです。

これからもボランティアの方々も、もっともっと楽しく、一緒に作り上げていきますよ〜。

ボランティアは随時募集しています!お問い合わせは担当・西埜まで。

西埜(スタッフ)

ほんねのスタッフ ⑩ ブログ継続なるか?

ふおれすと鉱山HPで「ブログ」とやらをはじめた。カンタンにHPに文
章や写真が投稿でき、より速く、より広く自分の思いを発信できる手法ら
しい。最初は何のことだかよく分からなかったし、ブログなんて芸能人と
か、どこかの社長がやるもんだと思っていたので、実は最初はちょっと気
恥ずかしかった。

しかし、始めてみると...、なるほどなるほど、確かにカンタンだ。とい
うのは、ふおれすと鉱山のHPは、ここ鉱山町のパソコンから更新するこ
とができず、いちいち市役所に行かなくてはならないので、素早い更新が
できないのだ。だから、旬なネタをすぐに伝えきれず、悔しい思いをして
きただけに、今、そのたまったエネルギーをブログにぶつけている。

ということで「ほぼ毎日更新」という目標を掲げてやっているが、その
エネルギーがどこまで続くやら。そこでふとスタッフを見渡すと...ううむ、みなスジガネ入りの「三日坊主」ば
かりだぜ...。いやいや、頑張りますよ!スタッフみんなで。ね、みんな。(U)



三日ボウズブラザーズ

コウモリに感動！ 幻の町？に感動

菊池先生の鉱山見聞録



鉱山町のずっとずっと山奥に「旭鉱」という所があります。ふおれすと鉱山のスタッフの間からは、幻の町と呼ばれています。なぜ幻なのか？

「登別市史」によると、今から100年ほど前ここ「旭鉱」は、良質な金が採れ、町も栄えていたそうです。その当時、抗夫の方や旭鉱の関係者の方などを含めると実に多くの人たちが、生活されていたようです。

そして、なっなんと!! かつては「小学校」もあったと記録されていました。

この100年間、世の中では様々なことが、大きく変化しました。そして、ここ旭鉱も例外ではありません。あいつぐ廃坑のため金鉱で栄えたこの町も幻となり、今では、誰一人この町に住んでいません。

それでも、あの頃と変わらずにこの町を流れる川の音や、当時のままの姿で残されている建物のレンガの一部に触れたとき、何とも言えない不思議な感覚に包まれました。

(菊池)

鼻歌コウモリ

~~モモンガがイカサ
るあどつめくみの~~
森のひみつシリーズ⑭

最近ではモモンガのことなどほっといてコウモリを追いかけている。コウモリといえばこの鉱山町にコウモリが住んでいるのが分かったのは、つい去年の夏のことだ。去年の夏といえばふおれすと鉱山ができてからもう3年も経っている。3年も経って鉱山にコウモリが住んでいることを知らなかったのは動物調査を担当してきたハカセとしての名折れでもある。

ともあれ、そうして分かってきたことの一つは、鉱山町で「キクガシラコウモリ」の仲間が繁殖をしていることだ。キクガシラコウモリは豚っ鼻でお世辞にもカワイイとは言い難い形相をしているから、知っている人も多いのではないだろうか。コウモリが超音波の鳴き声で周りの状況を把握するのは有名だが、このコウモリはなんと、鼻歌(?)でそれを行なう。多くのコウモリは人がしゃべるのと同じように口から声を出す、このコウモリの仲間は鼻から声を出す。しかも、超音波を聴くことができる特殊な機械で彼らの鳴き声を聴いてみると、それはまるで本当に歌っているようにふしぎな旋律なのだ。コウモリは種類によって違う旋律で鳴くんだけど、それは大抵「動物の鳴き声」らしくて聞いても別に不思議は感じない。しかし、キクガシラコウモリの常軌を逸した歌声は僕をすっかり酔わせてしまう。鼻歌だから声が小さくてなかなか聴ける機会もないのだが、彼らが楽しそうに歌って飛んでいる姿を見ると、なんだかグッと来るものがあるのである。



キモイって言うな!

リレーエッセイ Roots and Shoots リトル・ヴォイス

緑から彩りへ

矢野 康裕

季節の節目にはよくよく転機を迎えるものだと、鉱山のうつりゆく木々を見ながら感傷にひたる約一名。

以前そこには木々に囲まれた建物が、ひっそりと存在しているだけだった。それが3年という年月の中で、たくさんの人々が行き交い、森・川・植物・動物など様々な自然体験を行える場として成長していった。自分もその過程でモロに影響を受けた一人なのであろうか、今でも昔の自分と比べてしまう事が時々ある。

3年前の4月、間もなくオープンを迎える「ふおれすと鉱山」の準備を手伝う事になった。排気口の掃除や芝生植えなど、およそ自然体験とは無縁と思われる施設整備が主で、その時はまだ、すぐ後に結成されるボランティア組織に関わる事すら予想もしなかった。

その後、支援組織である「モモンガくらぶ」として自然活動に関わる中で、第二の転換期と呼べる強烈な出会いがある。それがミニチュアクラフトだ。それは、ほとんど力仕事がいらないので大人から子どもまでが、自然の産物である石・小枝などを独自の発想で小さく組み立てて楽しめる作品作りである。その魅力にとりつかれてしまった。結果、イベントではプログラムのひとつとして教室を開くまでに至り、その事がより深い関係に繋がるのだが、今思えば知らないうちに自分自身が社会教育されていたのでは？と感じる事もある。

今、支援組織は「NPO 法人モモンガくらぶ」として生まれ変わるまでに至った。それは、ふおれすと鉱山スタッフの協力や、自分も含め会員の成長の証であるが、ふおれすと鉱山のコンセプトである「永遠の未完成」を念頭に、自然活動の知識を活用するのはもちろんのこと、たくさんの人々にこのことを知ってもらい、また会員の中での交流も活発にしたいと思っている。実際、幼児～大正生まれと年齢層の広いこの団体は、学校で学べないような人生について勉強になることが度々ある。特に若い人とはこの経験を分かち合いたい。

今、鉱山は紅葉を迎えようとしている。緑だった樹木が赤や黄色に変化するの、葉にある成分の違いらしい。自分達も、“今までつちかった経験”という成分がどんな風に作用して、彩り豊かな色や形になっていくのか、そう思うと不安でもあり楽しみでもある。



ふおれすと鉱山でクラフトといえば、「やのっちクラフト」が有名だ。あるクラフト工房からお誘いの声がかかるほど、その腕前もすごい。そして、やわらかあい人当たりと、常に「お笑い」を考えるおちゃめさがなんともいえないナイスガイでもある。そんな彼はふおれすと鉱山ができあがる前から関わり、現在は某会社に勤務しながらNPO 法人モモンガくらぶ理事（事務局長兼務）として活躍している。

EVENT INFORMATION

イベントチェック

ふおれすと鉾山の事業

9/27(火)~30(金) | コウモリ観察ウィーク
 10/14(土)~16(日) | わくわく木育ランド inのほりべつ

モモンガくらぶの事業

9/25(日) 11:00~14:00 | 秋の野点
 10/23(日) | 秋のハイキング
 11/5(土)~6(日) | KONG 養成講座
 ~動植物、鉾石、歴史編~
 11/9(水) | 草木染め
 11/20(日) | クラフト教室

もりのようちえん

10/15(土)
 11/26(土)、27(日)
 12/24(土)、25(日)

ながぐつレンジャー

10/8(土) 11/26(土)
 12/24(土)

BRAND NEW EVENT!

のんびり 鉾山の自然めぐり

ふおれすと鉾山周辺の散策をしています

9/30(金)、10/7(金)
 10/25(火)、11/3(木)
 11/10(木)

CHECK IT!!

わくわく!木育ランド inのほりべつふおれすと鉾山

北海道がすすめる森と生活をつなぐ新しい育「木育」のひとつの形です。木の遊園地のほかに、木材を作り出す森を調べたり、おもちゃについての講演会など盛りだくさんの内容です!
 (担当:遠藤)

10/14(fri)14:30 ~

講演会

「木のおもちゃと"あそび"の関係」

長谷川 敦子さん

NPO法人北海道子育て支援ワーカーズ代表理事
H16木育プロジェクトメンバー

10/15(sat) 9:30 ~ 17:00

10/16(sun) 9:30 ~ 16:00

木の遊園地 &
木と森をつなげるとっておきプログラム

鉾山流里山づくりプロジェクトの森林整備ボランティア

デカタビレンジャー募集のお知らせ

一緒に里山を作りませんか?人との豊かなつながりを持った森は、たくさんの生き物や、人と人のつながりのよりどころになります。そんな素敵な森と一緒に作ってくれる仲間を募集しています。

100年かかる森づくりを、楽しみながらスローに続けてみませんか?

どんな人を募集しているの?

- ・年齢・経験は問いません
- ・自然が好き・森が好きな方歓迎
- ・各人でふおれすと鉾山まで来ること可能な方。(公共交通機関はありません)

お問い合わせ、お待ちしております!

(担当:遠藤)

HOT NEWS

ホームページをリニューアルしました! ブログで日々の鉾山の活動や自然情報を(ほぼ)毎日更新中!ホットな情報はこちらでぜひチェックを。

ふおれすと鉾山ご利用のご案内

開館・9:00~17:30

入館料・無料

休館日・毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日が休館となります)

・工作室・図書室はご自由に使っていただけます。そのほかに双眼鏡、

マウンテンバイク、調理台などをご利用いただけます。



エゾサンショウウオ
(佐藤 南津子)

EDITOR'S LOUNGE

秋はいつも切ない。毎年毎年切ないことが起きるから条件反射的に今年も切ない。葉っぱが散ったり寒くなったり雪が降ったり、そういう自然現象は多くの人に鬱的な感情をもたらすそうだが逆に僕は寒い冬の方が好きだ。でも毎年毎年切ないから、例えどんなに美しい紅葉が観れたとしても秋は一番嫌いな季節なのだ。

おくづけ

登別市ネイチャーセンター通信誌「鉾山録」 Vol.14

発行: 2005 年9月

発行所: 〒059-0021 北海道登別市鉾山町8-3

電話番号: 0143-85-2569 FAX: 0143-81-5808

E-Mail: kouzan@pluto.plala.or.jp

URL: http://www.noboribetsu.ed.jp/~ncenter/